

# 五条遺跡発掘調査資料

卷

1983年 11月

普通寺市教育委員会

## 1.はじめに

五条遺跡は香川県普通寺市金蔵寺町五条に所在し、昭和34年に普通寺第二高等学校分校で、農具舎の建設中に多数の弥生土器が発見されたことで注目を受け、現在ではその周辺一帯からも遺物の出土することが知られており、今後の調査による遺構の確認及び金倉川を基盤とした三井遺跡や中ノ池遺跡など、付近の弥生遺跡との関連や正確な遺跡の性格や、その範囲の把握が期待されている。

今回の調査は、普通寺市による竜川幼稚園跡地の売却に伴う遺構の確認調査である。

## 2. 調査の概要

調査予定地区はこれまでに、  
病院・高等学校・幼稚園が繰

返し建て直されており、遺構の破壊が考えられたことから、まず確認のためにH字形にトレーニチを設定し調査を行なった。その結果、地表下60cmの地点で多数の柱穴をもつ遺構面と、それに伴う遺物が認められたため、トレーニチで囲まれた範囲内に発掘区を設定し、昭和58年10月17日から同年11月10日まで調査を実施した。

遺構は一部攪乱されていたが、同一遺構面上で、弥生の落ち込み・中世の溝状遺構・近世の柱穴等を検出した。また、出土した遺物等からも、この地域がその恵まれた地理的環境から、弥生時代以降、人々の生活の場として連續して活用されてきたことが瞭然に判断できた。



第1図 調査区位置図 (1:50,000)

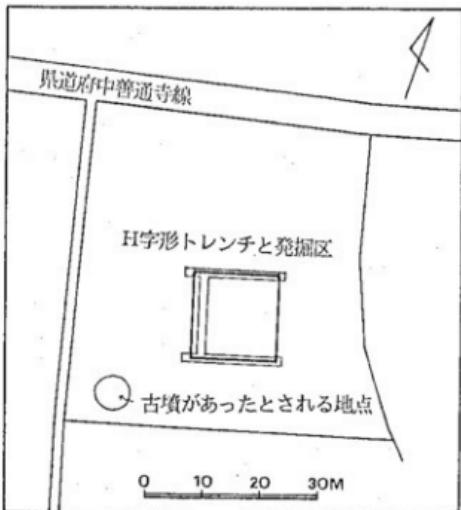
また、売却予定地内に古墳一基が存在していたことが知られており、ここにもトレンチを設定したが、攪乱がひどくその痕跡すら認められなかつた。

### 3. 遺構と遺物

地表より50cm程の深さまでガラスや石炭の燃え殻を含んだ攪乱層が続き、この下に3~4cmの厚さの灰白色砂質土層があり、染め付けの陶器片・寛永通宝・土製人形等が出土した。この土層を取り除くと黄褐色砂質土の遺構面が現われ、柱穴群や溝状遺構を検出することができた。

弥生時代の遺構の埋土は暗黒色粘性土で、弥生時代前期の土器片、サヌカイト製石包丁・石鏃、緑色チャート製敲石等を含み、遺構上に染み状に存在していた。

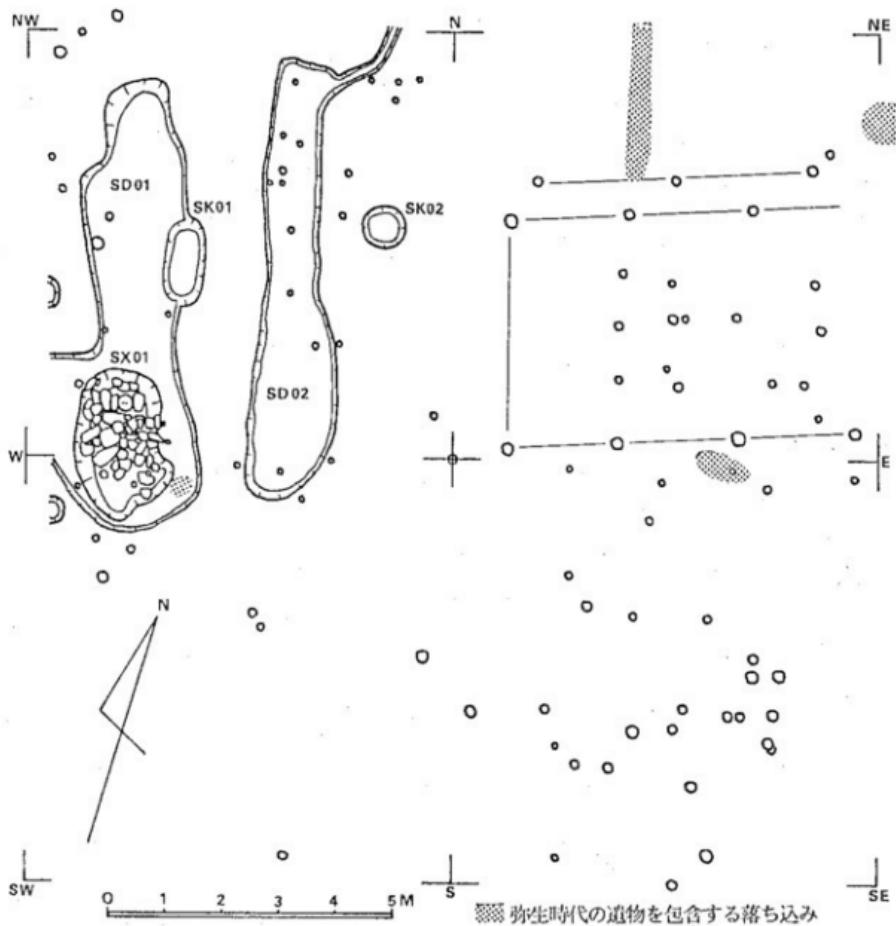
SD-01・SD-02は埋土が明灰色弱粘質土で、河原石・弥生土器・サヌカイト片・須恵器・土師器・土鍋・擂鉢・青磁等を含んでおり、SD-01の南端部にて礫白を基準に大型の河原石(砂岩)を組んだ配石遺構(SX-01)が検出された。礫白は摩耗して使用困難になったもので、他の石についても火に接し赤黒く変色したものが多く、長期間にわたる生活の痕跡としてとらえられる。この配石遺構の性格は不明であるが、下部構造を何も持たない反面、上部が平坦に構成されていることから、上に何らかの構造



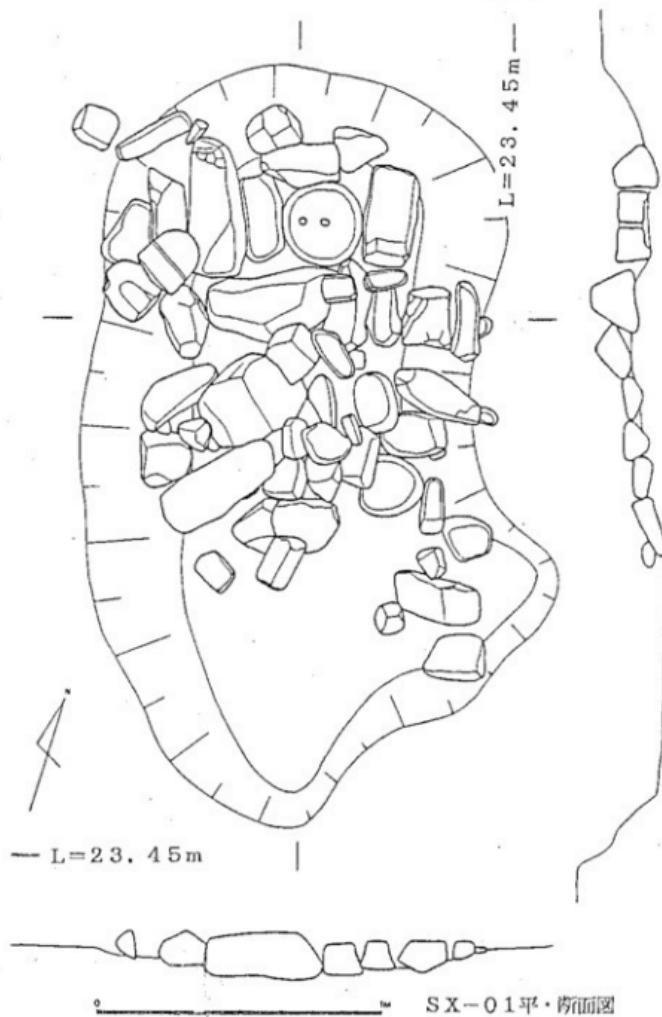
第2図 トレンチ・グリッド配置図

物を伴っていた可能性が強い。

柱穴群については、そのほとんどのものの埋土が遺構面上の灰白色砂質土であり同様の遺物を含んでおり、この遺構面に伴ったものであると考えられる。中世以前の遺構はこの面で削り去られており、部分的にその痕跡を残しているだけとなっている。



遺構群の調査終了後に遺構面下の土層確認のためにSEグリッドにトレンチを設定したところ、遺構面から約1m掘り下げた地点まで黄褐色砂質土層が続き、ここから淡青色の砂利層に変わり水が湧いた。また、こ



の黄褐色砂質土層中(遺構面下約20cm)から、この土層が形成される際に土砂と共に運ばれてきて堆積した状態で、縄文時代後期のものと思われる土器片が出土した。土器の表面は全く摩耗しておらず、そう遠くない所から運ばれて来たものが、短期間のうちに堆積したものと推定される。

#### 4. おわりに

今回の調査では、弥生時代の遺構は後世の土層攪乱のためにその痕跡しか認められなかつたが、五条遺跡の推定域はかなり広いものであり、今後の調査を期待したい。

また、最近も四国横断自動車道路建設工事に伴う発掘調査などによつて、五条遺跡と同時期のものをふくめて多数の遺構や遺物が発見されており、これまでに知られているものを含めると、かなり大きな文化圏が想定できる。加えて、縄文土器については五条遺跡以外にも稻木石川・上吉田での出土例があり、今後は縄文文化を丸亀平野にも求めてみたい。沖積層の下に縄文遺跡の眠る可能性は非常に高く、今後の調査による縄文遺構の発見にも大きな期待を寄せる。

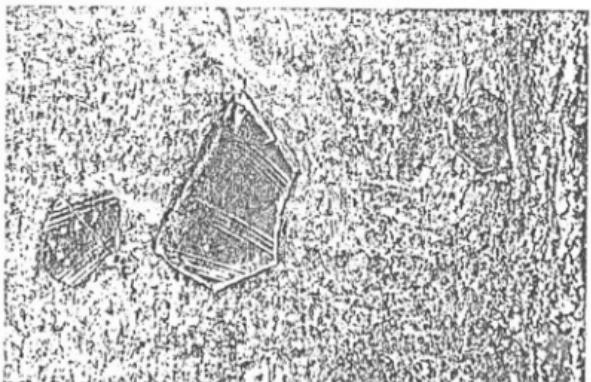
重機による試掘  
( 調査区全般 )  
北から



表土除去後の状態  
北から



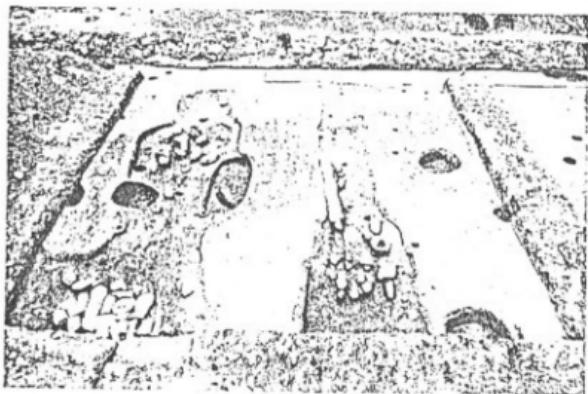
遺物出土状態  
( 試掘坑内 )



発掘作業風景  
( NWグリッド )  
南から



NWグリッド  
遺構検出状況  
南から



NEグリッド  
遺構検出状況  
南から



SEグリッド  
遺構検出状況  
北から



SWグリッド  
遺構検出状況  
北から



NEグリッド  
遺構検出状況  
北から



配石遺構検出状況  
(SX-01) 西から



配石遺構検出状況  
(SX-01) 北から



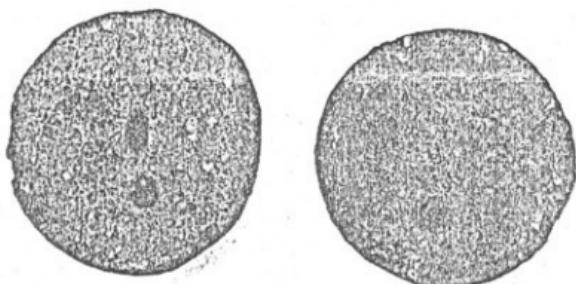
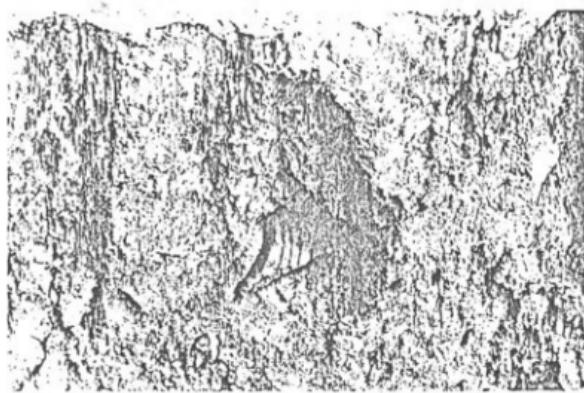
SX-01石材除去後  
北から



遺物出土状態  
( 土鍋 )



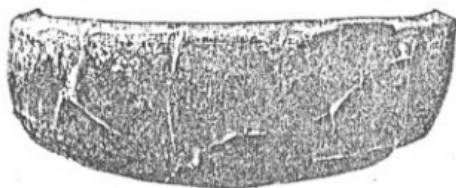
遺物出土状態  
( 縄文土器 )



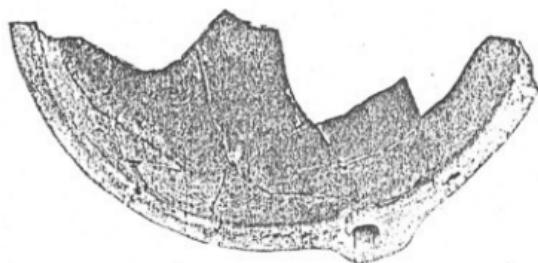
SX-01中の環白

SD-01出土の土鍋

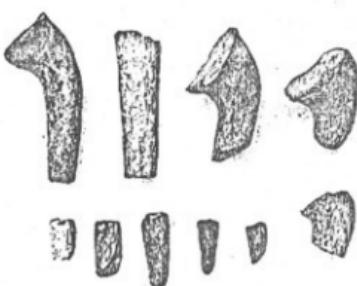
横から



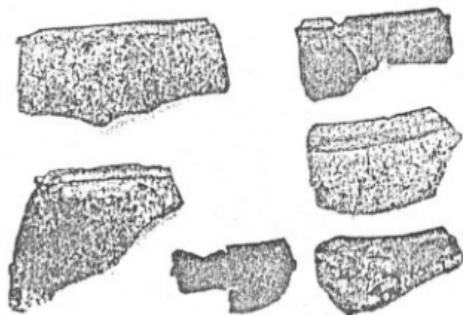
上から



SD-01及びSD-02  
出土の土鍋の脚



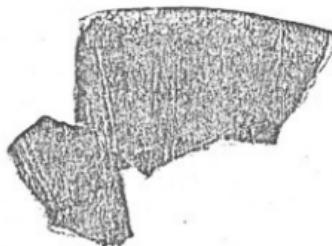
SD-01及びSD-02  
出土の土鍋の脚



SD-01出土の土鍋



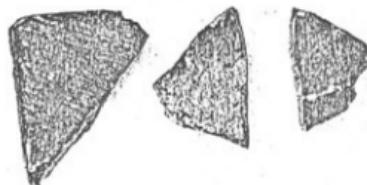
SD-01出土の擂鉢



土師器(小皿)



SD-02出土の古瓦



近世の遺物

染め付け

磁 器

土製人形

寛永通宝



弥生土器



サヌカイト製石器



※弥生時代の遺物は検出された遺構面(地山)上に  
染み状に遺存していた落ち込みから出土した。

※SD-01からは、青磁(碗)の破片も出土している。